川柳マガジン東京句会　２００８年８月10日
自由吟　コメント　松橋帆波

老衰というあっぱれな終わり方

「心不全」「多臓器不全」という言葉は報道用語なのかも知れないが、最近は訃報欄に「老衰」という言葉を見なくなった。この言葉を持ってきたところが作品の「手柄」

ボタン二つ外してみるかお洒落して

「外してみるか」と「外してみよう」を比較。それによって人物が男性か女性かの違い、句の世界の違い、そういうことを検証しながら作句手法を学びたい。

鳥の巣に怖いカラスがいなきゃいい

鳥の巣は北京五輪のスタジアムか。「怖いカラス」というネガティブを重ねた表現による強調を検証したい。

熱帯夜一寸寝不足明烏

「明烏」というのは「明烏もの」として歌舞伎、浪曲、落語などで有名。もっともこの作品の「明烏」は「烏が鳴き始め、空も白んできた」の意味だろう。「明烏もの」と捉えられると句意が判りにくくなる。他の意味があるのかも知れないが・・

パイプ役して友情の和をつなぐ

「友達の友達も友達」を形にした作品。「パイプ役して」という表現が「手柄」

神代から困った時の米頼み

穀物高騰対策として米粉を混ぜたパンなどが商品化されていることなどを取り上げたのではと思うが、上五の表現からもっと別の事象があるかも知れない。

何時か死ぬもうそれ以上考えぬ

「達成感」「絶望感」「悲壮感」など、主人公の感情が見えない。読者によって評価が変わる作品。

蒟蒻の畑でデートするメタボ

イメージとしてはコンニャクサラダ。海草も盛り沢山。そこで「畑」という見立て。お互いがメタボかどうかまで想像するかしないかは読み手しだい。

そう言えば近頃紅もつけてない

「も」が効いている。紅のほかに何かという想像から色々なことが読み取れる。たとえば「そう言えば紅さえつけていない今」では、嘘になってしまう。化粧にも手順があるのだから。

彼氏争奪共に振られる

七・七の作品は、もともと発句に対する短句、長句に対する短句であったものを慶紀逸（けい・きいつ）が抜き出して武玉川として独立させたもの。従って句の傾向として「オチ」というか完結性が強いものが好まれる傾向にある。

この作品では「振られてそしてどうしたの？」となり、完結性において弱さを感じる。

猿山のボスが一番寂しそう

組織トップの孤独感の表現であるが、猿山ではいかにもという感じもある。助詞の検証をしてみたい。

古傷を風に晒して強くなる

「風」という比喩を、読み手がどのように受け取るか、それぞれの印象を聞いてみたい。

はてここはどこだ電車で目が覚める

日常風景の描写であるが、数多く作られている可能性がある仕立てになっている。「電車で」以下をさまざまに変えて、既視感を消すことを検証してみたい。例「はてここはどこだ新幹線の中」「はてここはどこだお巡りさんがいる」「はてここはどこだ女房が泣いている」

模倣犯多すぎ主役奪われる

通り魔事件後のネット上での犯罪予告のことか。「主役」という捉え方は面白い。いつの間にか事件の核心部分が薄れていく報道の問題点まで読めるかどうか。

震度7トイレで五秒前の予知

「7」「五」それぞれの数詞にいて、検証してみたい。今ひとつうまく稼動していない地震速報への皮肉として面白い。

素潜りはアルキメデスに逆らって

素もぐりには結構コツがいる。そこへ「アルキメデス」を持ってたところが「手柄」

追っかけのファンに予定を確かめる

追っかけの対象者の「誰」があれば具体性が出て面白いかとも思うが、逆に共有性がスポイルされる恐れもある。難しいところ。

触れた手が男の地熱記憶する

「地熱」がどのように捉えられるのか、それぞれの意見を聞いてみたい。

棲む魔物手繰り寄せてはメダル獲る

魔物を手繰り寄せると言う表現が「手柄」

熱帯魚だけが元気な熱帯夜

過去に詠まれている可能性が大。リフレイン表現の面白さは誰もが考える可能性を否定できないだけに難しい。

ピピーピピー添乗員が焦ってる

オノマトペが効いている。音字数の点で冒険になるが「ピピーッ!ピピーッ!」等の表現の是非を検証してみたい。